

甲賀木の駅プロジェクト事業計画書

団体名 甲賀木の駅運営委員会

事業名	森林資源利用による森林整備の推進と地域通貨による森林の恵み実感 「甲賀木の駅プロジェクト」	
事業の目的	「森づくりは地域づくり、地域づくりは森づくりとともに」 森林環境の改善を実施していくためには、そこに住む地域の人々の思いが森林に向かう必要があります。直接的な利益（収入）と間接的な利益（環境・水源・景観等）を実感できる仕組みを実施することにより、地域住民自らの手で森林環境改善と地域の活性化を行うことを目的としています。	
事業の動機・背景	森林荒廃・高齢化・過疎化→森林整備+地域活性化 甲賀愛林クラブは長年、森林整備の推進とその普及を目的として活動してきました。しかし、木材価格低迷により山主の森林への関心はさがっています。祖父世代がなくなると、所有林の位置さえ分からないという家も少なくありません。 そこで、森林を育成し活用していくことと地域を守り活性化していくことを結びつけ、森林所有者だけでなく地域の様々な立場の人が関われる仕組み「甲賀木の駅プロジェクト」を実施し、山にかかわる人を増やし山の恵みを実感できる人を増やすために当事業を行うことにしました。	
事業の概要	林地残材を甲賀チップに、代金は地域通貨「モリ券」で 木の駅集荷登録者は、所有林や運営委員があつせんする山林において、プロが間伐後の林地残材を集材または、自ら間伐を行い甲賀チップに出荷を行う。木材代金は木の駅運営委員会が登録者に対し、甲賀町内の登録個人商店で使える地域通貨「モリ券」で支払う。地域通貨による木材代金は6000円/tとする。これは、一日精一杯働いてその日晩酌ができる程度の収入となる金額である。しかし、実際のチップ価格は約3500円/tで買い取りされる。ため、 <u>環境保全&地域振興貢献代金として+2500円上乗せして6000円/tとする。上乗せ分は寄付金等で賄う。</u> （この上乗せ金に苦慮しており、今後の市の補助サポートを希望いたします） これにより甲賀町内に自ら山に足を運ぶ人が増え、森の恵みが地域の商店を応援することとなる。また、「モリ券」は森林に関わりの薄い一般の人にも森林の価値を伝えることが期待できる。	
期待される効果	環境保全への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間伐の促進 ・ 木材の利用促進 ・ 持続可能資源の循環 ・ 森林環境への理解が深まる

	地域振興への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の商店にお客が増える ・地域に循環するお金が増える ・地域を見直すきっかけになる
	活動団体の次への展開	<ul style="list-style-type: none"> ・チップだけではなく薪や木材製品として付加価値を上げ、資源循環のサイクルを作る。 ・林地残材だけでなく立木の伐採搬出ができる人材の育成。 ・子ども木の駅プロジェクト、搬出から地域通貨で買い物するまでを体験し木材利用を実感してもらう。
課題やリスク	実施について	<ul style="list-style-type: none"> ・森林に関心のある世代は60歳代以上が中心。若者世代を取り込んでいく必要がある。 ・運営委員に今後、佐山自治振興会・油日自治振興会にも入ってもらいたい
	資金について	<ul style="list-style-type: none"> ・差額の上乗せ金が必要となる事業体系であるため、何らかの寄付や補助金が必要である 資金調達方法（案） <ul style="list-style-type: none"> 運営員の出資（H26はほぼ出資のみ） 自治振興会の事業として組み込んでもらう 寄付を募る（企業募金、家庭募金） <ul style="list-style-type: none"> ・運営費もいずれは自立していく必要がある。（H26は運営費のみ民間助成を取得できた）
	安全面について	<ul style="list-style-type: none"> 危険を伴う作業であるため、事故等の対処。 ・保険加入の義務化 ・安全及び技術の研修を定期的に行う
	その他	
事業実施体制	<p>甲賀愛林クラブ有志および大原自治振興会有志メンバーにより甲賀木の駅運営委員会を立ち上げた。平成26年4月現在で約20名。運営委員会は「甲賀木の駅プロジェクト」の運営を行う。木材出荷者は地域市民から広く参加者を募集し、登録制とする。地域通貨の使用範囲は甲賀町内とし、その範囲内にある個人商店で地域通貨の使える店を募集する。</p>	
協力団体や連携諸機関	<p>自治振興会 甲賀愛林クラブ 甲賀チップ</p>	
事業内容の詳細	<p>甲賀愛林クラブは、森の成長とともに活動を行ってきました。植栽した苗木の育林方法を皆で研修して、皆で実施してきた林業愛好グループです。自らの山を世話するだけでなく、一般市民に対する森林環境学習やキノコや自</p>	

然薯など里山の恵みの生産など多岐にわたる活動を続けてきました。

しかし、森林が成長した現在、必要とする育林作業は間伐ですが、これは多くの危険を伴う作業であるためうかつに素人が手を出せません。また、植栽したころに比べて木材価格は1/4まで下落したこともあり、多くの山主が山に行かなくなりました。

とはいえ、甲賀愛林クラブのメンバーや地域住民にとって、森林が大切なものであることには変わりありません。

そこで、プロが間伐した後の林内に放置された林地残材に注目しました。大きく成長した森林の間伐は、通常プロに委託して実施されますが、間伐材は利用価値の高い部分だけ搬出されあとは林内に放置された状態です。切口10cm以上長さ1m以上であればチップ材として業者に買い取ってもらうことができます。この林地残材の集材なら、チェーンソーと軽トラがあれば始めることができ、高齢者や初心者でも可能な作業です。しかし、チップ材は約3500円/tで取引されるため軽トラに3回積んで運んでやっと3500円、これではやる気が出ません。そこで、「甲賀木の駅プロジェクト」を実施することにしました。

まずは、甲賀愛林クラブと大原自治振興会の有志により「甲賀木の駅運営委員会」を立ち上げました（いずれは町内すべての自治振興会に参加してもらいたいと考えています。）運営委員会は、甲賀地域に合ったプロジェクトの方法を協議し、運営を行います。甲賀町民等から木の駅出荷登録者を募集し、登録者が搬出した材を運営委員会で発行する地域通貨「モリ券」によって買い取ります。また、「モリ券」が利用できる商店の募集も行い商店で利用された「モリ券」の換金などを行います。買取りと支払いの差額は、寄付金等で賄います。

この仕組みで得られる効果として、森林から直接地域で使えるお金が発生すること。それにより、「山へ行こうかな」という人が増え、森林を意識する人が増えます。また、実際に山での作業を重ねることで、森林の現状を知り、整備が進みます。

また、支払いを地域通貨にすることによって、自分が山で行った労働が単なるお金ではなく、地域に役立つお金として帰ってくることで、また「モリ券」を家族にあげたり、店で使ったりすることでこれを受け取った人も森林の恵みを意識することができるようになります。

木は重く大きく、その作業は体力を必要とし、危険を伴います。チェーンソーの使い方や木材の取り扱い方法など新規参加者への研修も行っていきたいと考えています。

また、チェーンソーの扱いに慣れたのち、自分たちで間伐もできるようになりたい人たちのための伐採搬出研修も実施したいと考えています。

この活動が軌道に乗ったら、かつて甲賀地域で「山結」として皆で山に行った姿が復活し、山に通う人々の姿と山の価値を見直す人が増えるだろうと皆意気込んでいます。

事業スケジュール	平成26年度事業 実施期間 平成26年 1月19日～平成27年3月31日
(月別)	<p>1月 木の駅プロジェクト 準備委員会立ち上げ</p> <p>1月から3月 立ち上げ準備</p> <p>4月 実行委員会発足 随時会議開催 (会議開催内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所選定 ・チラシづくり ・寄付金集め・木材搬出者募集 ・商店募集 ・運営方法検討 ・内容検討 <p>(事業)</p> <p>6月 甲賀木の駅プロジェクト立上げ祭典</p> <p>10月～2月の内1回 先進地視察</p> <p>10月 木の駅プロジェクト体験研修会(チェーンソー研修を兼ねる)</p> <p>11月～1月 第1回 木の駅プロジェクト実施期間</p> <p>12月 伐採搬出研修</p> <p>11月～3月 平成26年度地域通貨使用期間</p>